

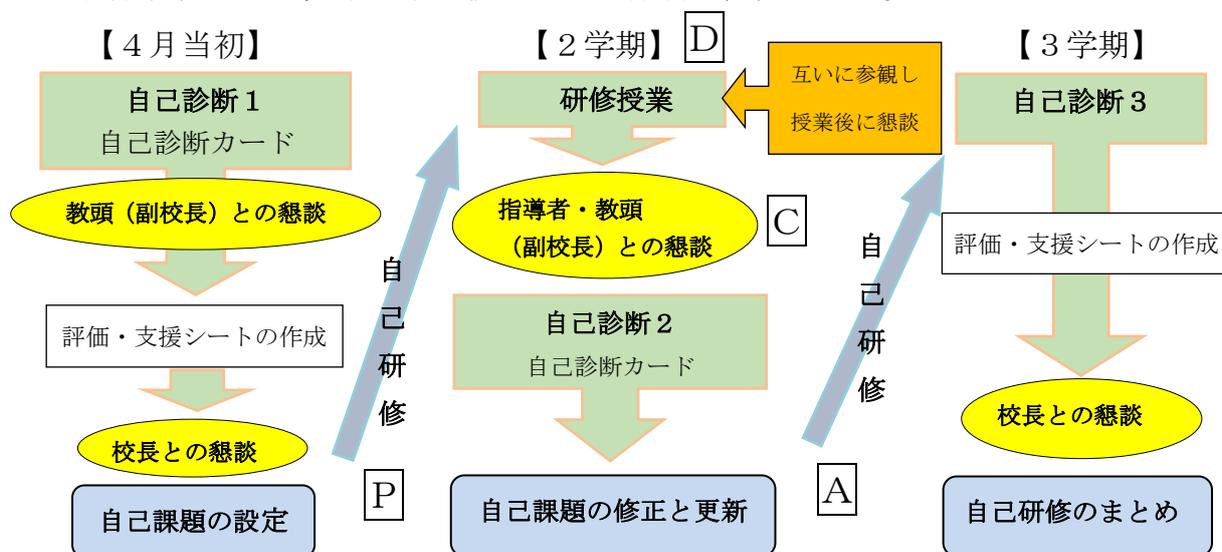
⑧<学習指導 指導方法>

個々の授業力向上を図るための校内研修は？

【キーワード】 学び続ける PDCAサイクル 語り合う

【事例1：学び続ける！PDCAサイクル】

- ねらい
教員一人一人が自己課題を設定し、その自己課題に基づく研修を通して、授業力の向上を図る。
- 内容
授業改善のため、常に学び続ける研修体制を位置付ける。



- 方法
 - (1) 教員育成指標を参考に、キャリアステージに応じて、教育課題に迫るための自己課題を設定する。
 - (2) 校長・副校長・教頭との面談を通して、管理職と自己課題を共有し、支援を求める。
 - (3) 年1回授業公開を実施し、互いの授業を見合う場とする。希望者は、校内外に指導者をお願いし、自己課題の達成度と課題について指導してもらう。
 - (4) 授業公開後、同僚や管理職等との懇談を通して、自己課題の修正と更新をし、更に研修を進めることで授業力を高める。
 - (5) 年度末に、評価・支援シートにまとめて学校長と懇談することで、1年間の振り返りをするとともに、次年度への見通しをもつ。
- 校内研修の様子
 - (1) 全職員が、自己課題に応じた授業改善を実施した。
 - (2) 課題を更新し続けることで、常に授業力の向上を図ることができた。
 - (3) 自己診断カードと評価・支援シートを活用し、管理職や同僚と自己課題を共有しながら研修を進めることで、学習指導のPDCAサイクルが確立し、スキルアップにつながった。
 - (4) 同僚間の対話が増え、児童生徒理解が深まった。

「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善をしていこう。先生方に自分の授業を参観していただき、学校全体に広げていこう。(中堅教員)

➤セルフチェック⑧-8



➤セルフチェック⑧-1

今年は、先輩方の授業を参考にして、基本的な指導方法を学ぼう。(若手の教員)



【事例2：毎回15分！授業を語る“ちょこっと研修会”】

- ねらい
学年会（連学年会）で、教育課題に関わる実践報告や互いの実践上の悩みを語り合うことを通して、各学年や教科のねらい、教育課題への理解を進め、有効的な学習指導の方法の共有化を図る。
- 内容
各校で行われる学年会（連学年会）において、研究担当者や学年主任を中心に、毎回「授業について語る“ちょこっと研修会”（15分程度）」を位置付け、語り合う。
- 方法
(1) 研究担当者は、研究主任と連携しながら、校内で進めている研究・研修の情報交換や校外研修の報告、授業実践の提案など、各ステージの先生方の実態に寄りそった内容で計画的・意図的に進行する。
(2) 教科書を持ち寄って、具体的な学習指導について語り合う。
- 校内研修の様子
(1) 行事計画や児童生徒理解の話題が中心だった学年会で、授業について語り合う時間が位置付いた。
(2) 年間計画に位置付いている学年会の時間を使うことで、特別に集まらなくても気軽に授業についての情報交換・意見交換ができた。
(3) 担当学年の近い職員同士で語り合うため、実際の児童生徒の姿を通して学習指導について話すことができた。

学習問題を工夫してみたらどうでしょう。クラスの子が興味を持っていることで、思わず対話したくなる学習問題を一緒に考えてみましょう。
(ベテラン教員)

➤セルフチェック⑧-7



児童生徒の対話がなかなか進まないのですが、どうしたら良いでしょう。
(若手の教員)

➤セルフチェック⑧-3

研修後のまとめ

○縦軸の研究部会と横軸の学年会がそれぞれに学習指導について話題にすることで、多様な指導方法の情報を得ることができた。定期的に話す機会があるので、日々の学習指導に生かすことができた。また、年間を通して続けることで、学校全体で学習指導の方法を共有することができた。